

那賀町議会から お知らせ



那賀町議会：ホームページアドレス
http://www.town.tokushima-naka.lg.jp/gikai/

令和4年7月女性議会

一般質問から



主な質問とこれに対する長や関係課等の

答弁の要旨は次のとおりです。

一般質問をすぐに視聴したい方は、議会中継
または議会後に放送される録画放送をご覧ください



谷澤知圭模擬議員

小児科、耳鼻科、産婦人科の那賀町への誘致について

Q 子供が風邪を引いたとき、阿南や小松島、徳島まで毎回通うのが大変である。また鼻水取りの処置ができる耳鼻科、妊娠中月1・2回ある定期検診ができる産婦人科も遠い。せめてその定期検診ができる環境作り、小児科や耳鼻科の那賀町への誘致を検討いただけないだろうか。

堤貴昭へき地医療戦略室長

A 町内の医療体制維持のため県内各機関から派遣医師の支援をいただいている中で、小児科医や産婦人科医など医師数が少なく確保が難しい現状もあるが、町のニーズにあった医療体制を構築できるような努めていきたい。

坂口博文町長

A 医師確保については、自治医大卒及び県の地域卒の医師を派遣に加えて、徳島大・赤十字病院からの支援医師で対応している。今後中核病院からの支援になるとも言われている。また看護師の不足もあることから、将来1病院4診療所の集約もせざるを得ない時期が来ることも想定される。

移住、創業、医療や子育て等、様々な補助金・助成金の把握及び情報サイト創設

について

Q 私は創業して間もなく那賀町へ来たが、創業関係の補助金、助成金の調べ方が分からなかった。今も次々と増える補助金、助成金が把握しきれずにいる。那賀町は特に創業に関して固定費が浮くため、創業・起業したい方には相性の良い場所と考える。必要な人に必要な情報を届けるという意味で、今どのようにお知らせを行っているか伺う。

武田卓士ケーブルテレビ課長

A 町ホームページで、補助金のカテゴリーを追加した。キーワードでも検索ができる。今年度チャットボットを進めている。広報誌、ケーブルテレビ等でも情報を届けている。役場、支所に相談いただくのが一番と思う。

坂口博文町長

A 制度の収集方法については、デジタル化に向けて取り組んでいる中で、欲しい情報を検索すれば関連情報が分かるシステムを構築している。



遠藤真紀子模擬議員

定住人口増加のための施策及び空き家対策の実態について

Q コロナ禍で地方移住が加速している中、ここ5年間で町が本気で取り組んでいる施策、実際の移住人数、その後の定着率を伺いたい。2020・2021年度ともに移住者数が8人だったとのことだが、実際の施策に効果があったとお考えか。また空き家に対する支援や具体的施策、空き家バンクの登録・利用状況、3種類ある空き家改修補助の違いを教えてください。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A 空き家バンク制度等の施策を実施、5年間の合計移住者数は176名、定住数調査は今後研究する。実施策は一定の効果があり、支援制度としての空き家バンクの利用は賃貸売買成立が54件である。また現在運用している補助は、町単独の空き家改修費等補助金と国庫補助の空き家対策総合支援改修等事業の2つである。

坂口博文町長

A 空き家対策、つまり移住対策。移住者の課題は、地域とのコミュニティ、仕事、休日の過ごし方、そうした希望を含めて状況調査を行っていく。

「那賀町だヨ！全員集合」YouTubeチャンネルの効果測定について

Q YouTubeチャンネルのシャツ製作等総事業費200万円に見合った那賀町PR効果があったのか。令和3年度には378万6千円の予算を組まれたのは余り得策とは言えないと思うが、いかがか。また最終的な成果目標は動画の再生回数ではなく、移住者を増やすことだと思案するが、どのようにお考えか。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A 当該事業は現地での移住促進イベントの代替事業としてオンラインで行われたもので、全4回の配信データから一定の効果があったと考える。目標は移住者の増加であり、今後一層民間との協働を図りたい。

子どもたちへの「故郷教育」について

Q 今の子供たちは学業以外に塾・部活等で非常に忙しいと聞くが、ふるさとの良さを体感する時間はあるのか。私が運営している「那賀町に暮らす魅力的な人々」というサイトで様々な方にインタビューをした中で、Uターンして来た方に理由を聞くと、「那賀町の良い思い出」だと言う。那賀町を後にした方が戻って来られるようにどのような教育を行っているのか、お聞かせ願う。

高岡勇人教育次長

A 小学校・中学校それぞれ学校毎、学年ごとに特色を生かし、工夫した教室・体験活動を行っている。那賀町としては取組に対してふるさと学習補助金を出し、支援している。



川人弥生模擬議員

移住促進に関するソフト面での取組について

Q 全国的に移住者が増加傾向にあり、過疎化の進んでいる那賀町においては移住者の受入れが重要と考える。親戚・知人の居ない移住者が移住後も長く暮らし続けるために、地域住民と移住者をつなぐための場所や、コーディネート、実生活を送ることで見えてきた情報、それぞれの地区の「おためし住宅」等が必要と思われるが、いかがか。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A 集落支援員制度を活用し、移住希望者への情報提供や移住者の意見調整を実施する予定である。おためし住宅については、残りの地区においても今後整備する予定である。

坂口博文町長

A 移住問題で旧5か町村でも、生活習慣等状況が違ってくる。まず、地域の特性を知っていただき、御理解願う。



橋本延子模擬議員

林業における課題解決方法及び持続可

能な林業に向けての施策について

Q 県の林業行政が出している多くの施策にのって那賀町もやっていると思うが、施策を行う上で生まれる多くの課題に対する解決方法と、持続可能な那賀町の林業施策について。また現在行っている皆伐高性能林業機械の今後の方針について伺いたい。

橋本浩志副町長

A 徳島県の人工林（杉・桧など）の多くが伐採して利用できる状況であり、木材を輸入していることから効率よく高性能林業機械を使い皆伐も進めるが、皆伐後の植栽も併せて進める。また杉や桧だけでなく、場所によっては広葉樹も植栽し、多様な森林づくりに努める。

坂口博文町長

A 那賀町の林家の構成は、5ha以下の森林所有者が17%から20%くらいと小規模林家が多い中で、地域を集約して施業・搬出について効率的に高性能機械の活用を含めて進めたい。

林業に関する地域おこし協力隊の不在について

Q 那賀町の基幹産業である林業において、地域おこし協力隊がないのはなぜか。

三好俊明まち・ひと・しごと戦略課長

A 要望に従い林業に関する活動の募集は行ってきたが、森林作業での活動には応募がない。今後も受入れ希望があれば募集する。



玄番真紀子模擬議員

那賀町の伝統文化・生活文化を継承し活動されている各取り組みや個人の掘り起こしと調査・研究・記録を行うプロジェクトチームの立ち上げについて

Q 那賀町として各旧町村の伝統文化、有形無形の文化的価値のある物、郷土資料などの所在や実情を把握しておられるか。把握されていなければ今後の計画の有無と、自分たちの住む地域の価値をより深く理解するために、学芸員等専門家の方にも入っていただくのが良いかと思うが、いかがか。

高岡勇人教育次長

A 文化財保存活用計画等を策定する中で、今後整備していきたいと考えている。

坂口博文町長

A 伝統文化の保存には、旧町村の町史も活用的な人材の継承も含めて保存を続けていきたい。

ふるさと学習は一貫性、継続性のあるものとなっているかについて

Q ふるさと学習は子どもたちが足元の文化や歴史について学ぶために大変有効だと思う。指導する先生方は単年度で替わられるが、それらは一貫性、継続性のあるものになっているか。

高岡勇人教育次長

A コロナウィルス感染防止対策を行った上で、昨年に引き続き学習する。メニューについても継続すべき事業が多いと考えている。

岡川雅裕教育長

A 昨年度からのコミュニティスクールで学校と地域が一体的に学校運営を実施している。遠距離勤務で2年で異動される先生も多いが、地域の協力もいただき、子供たちの思い出となるようなふるさと学習を継続したいと考えている。今後も地域の御協力をお願い申し上げます。



高見公子模擬議長 挨拶

女性議員の皆様には、本会議の議事進行に御協力を賜り、御礼申し上げます。本会は模擬議会ではあったが、5名の女性議員には子育ての視点、地域の活性化を図る視点、移住者としての視点、地域の産業を担う視点、文化を継承する視点から、それぞれの体験や実践を基に未来の那賀町を見据えた重要かつ切実な提言が行われた。さらに女性ならではの意見も多く含まれ、誰もが幸せに希望を持って暮らせる魅力的な町づくりへの熱い思いが感じられた。坂口町長の御答弁にもあったように、本日の提言が具体策をもって町政に反映されることを願う。